

考・努・感

尾張旭市立旭中学校

旭中学校ウェブサイトもご覧ください。

<http://www.owariasahi.jp/asahi-j/>

☆2学期スタート☆

「夏休みが終わってしまった・・・」とがっかりしている人、「よしっ、2学期が始まるぞ！」とやる気に満ちあふれている人、あなたはどちらのパターンですか？

2学期は、「体育大会」「文化発表会」とクラスで取り組む大きな行事があります。現在のクラスになり、半年が経とうとする中で“クラスの力”が試されます。みんな(クラス)のために自分自身に何ができるかを考え、そして行動に移していきましょう。

【部活動への思い～甲子園大会より～】

宣誓。私たちが高校球児は「不撓不屈(ふとうふくつ)」の精神を胸に、前だけを見て進んできました。今日、甲子園の土を踏みしめた瞬間、これまで支え、導いて下さったすべての方々に、改めて感謝の気持ちがあふれてきました。

今年は熊本で大きな地震が起こり、様々な苦しみや悲しみの中におられる方も大勢見て下さっていると思います。私たちのプレーに共感と新たな希望、そして生きる力を感じて下さるなら、本当に幸せです。

高校野球は新たな1世紀を迎え、この特別な年に、憧れの甲子園で大好きな野球ができることに、大きな喜びだけでなく、不思議な縁を感じています。これからの100年も、高校野球が皆様に愛される存在であり続けるよう、未来への架け橋として、ここ甲子園で一生懸命、最後までプレーすることを誓います。

(第98回全国高校野球大会 選手宣誓)

この夏から、部活動では名実ともに最高学年となりました。どんな気持ちで日々の活動に取り組んでいるのでしょうか。部活動ができることは、当たり前なことではありません。この選手宣誓の言葉から何かを感じ、日々の活動に生かして行ってほしいと思います。

(今週・来週の予定)

- 2日(金) 4時間授業、給食開始
- 5日(月) 総合「自学の時間」
- 6日(火) □座振替日
- 7日(水) 総合「上級学校調べ」
- 8日(木) 体育大会学年練習



(保護者の皆さんへ)

今年の夏は例年になく平野部では雨も降らず、猛暑の日が続きました。体調を崩されていなかったでしょうか。

いよいよ今日から2学期がスタートします。子どもたちの心の中は、2学期が始まる喜びと夏休みが終わってしまう寂しさが入り交じっているのではないのでしょうか。2学期は、体育大会・文化発表会と学校全体としての取り組む大きな行事があります。また部活動では、最高学年となり後輩を引っ張っていく立場になります。

活躍する場所・輝く場所はそれぞれだと思いますが、「旭中生として！」自覚と責任、そしてやりがいをもって行動できるように支援していきたいと思います。2学期もよろしくお願ひします。

『継続する』簡単そうに見えて、なかなかできることではありません。しかも1年以上も続けるなんて・・・。また、何か見返りを求めてやるものでもありません。でも、やっぱり“思い”をもって続ける・やりきることは大切なんだと改めて感じました。ぜひみんなにもこの2学期、どんなことでもかまいません。何か続けやりきってほしいと思います。

はま風 トイレ磨き続けた 神様いた



市尼崎 古川莉央君

「トイレの神様」という歌がある。女の子が願い事をかなえたくてトイレをびかぴかにする曲だ。そんなこととして効くのかな。市尼崎で磨き続けたのは、僕。始めたのは昨年の3月17日。きっかけは竹本監督の一言だ。練習試合で、プレー中の約束事を破って雷を落とされた。「技術じゃない。何か一つ継続することから始めろ」。朝練前の30分間、グラウンド脇のトイレを最上級生が輪番で掃除するのが野球部の「伝統」。2カ所あるうちの一つのトイレを下級生の僕が担当することになった。野球と関係ないわ。裸足にかかる水が冷たくていられた。

3カ月後、監督から「まだやるか？」と問われ、「やりきます」と意地を張った。悔しくて言っていた、続けていると練習試合で人生初の2打席連続本塁打。チームも33年ぶりに甲子園へ。これ、トイレ掃除のおかげかな。甲子園へは背番号18で臨んだ。いいことありますようにって試合前、室内練習場にあるトイレトペーパーの先を、普段通り三角形に折り込んだ。試合は出番なし。でも2点を追う9回、しびれる光景を見た。「応援席をみる」。監督の言葉で仰ぎ見たアルプス席は、スクールカラーの鮮色が波打っていた。心強かった。直後、同点だ。1年4カ月と24日目。涙でよくみえないけど、トイレの神様は確かにいたって思える。(藤田柳子)

8月10日(朝日新聞)

あなたたちの先輩です。梶浦さんに限らず、この旭中学校を卒業し、様々な場所・環境で頑張っている先輩はたくさんいます。部活動では、名実ともに最上級生となりました。先輩たちにどんな背中を見せる先輩を目指しますか???

はま風 ラッパの音 みんなに届け



東邦マネジャー
梶浦郁乃さん

仲間を信じて笑顔で楽しむ。エースで4番の藤嶋主将が帽子に書いてくれた言葉を守った。記録員でベンチ入りした2回戦は、九回に4点差を逆転してサヨナラ勝ち。きつと、この日も「がんばれの気持ち、届け」。今度はアルプス席でルパン三世のテーマ曲やさくらんぼの曲を響かせた。

部マネジャーとして、この夏ちょっとした有名人に。きっかけは去年の今頃。小学校でトランペット、中学でホルンを吹いていたのを森田監督に話してからだ。吹奏楽部は強豪で、野球部の試合に応援に来られないこともある。「俺が買ってくるから吹いてみる」。冗談と思つて笑い飛ばしたら、数日後、監督は本心に楽器を持って現れた。トランペットに触れるのは小3以来。吹奏楽部員に楽譜をもらい、特訓も受けた。昨秋の明治神宮大会、今春の選抜と、たくさん吹く場をもらった。それでも最後の夏は特別。愛知大会前、通常のマネジャー業が終わった後に自主練習した。甲子園入りした後も宿舍の屋上でバットを振る部員の横で吹いた。負けたけど、グラウンドもスタンドも諦めていなかった。粘り、そして悔しさは後輩が継いでくれる。一つ、自分にも楽しみが出来た。後輩マネジャーがトランペットを吹きたいと言つてくれている。伝統が生まれそうだ。(藤田柳子)

8月18日(中日新聞)